

石坂団十郎 Danjulo Ishizaka (チェリスト)

79年 日本人を父、ドイツ人を母にドイツ・ボン市で生まれる。4歳よりチェロを始める。
93年 ケルンでH.-C.シュヴァイカー教授に師事する。
97年 アメリカ・インディアナ大学招聘留学。
98年 ベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学でB.ベルガメンシコフ教授に師事。
04～06年 ベルガメンシコフ教授亡き後、T.ツインマーマン(ピオラ)、A.ヴァイトハース(ヴァイオリン)の両女史に師事。
これまでB.グリーンハウス、G.クルターク、M.プレスラー、アルバン・ベルク弦楽四重奏団、アマデウス弦楽四重奏団等にも師事し、強い音楽的刺激を受ける。

92年 第1回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール(モスクワ)で、最年少ながら特別賞受賞。
98年 カサド国際チェロ・コンクール(スペイン)優勝。
99年 第2回ルトスワフスキー国際チェロ・コンクール(ワルシャワ)優勝。同時にルトスワフスキー特別賞受賞。
01年 第50回ARDミュンヘン国際音楽コンクール第1位。
02年 第1回エマヌエル・フォイアーマン大賞コンクール(ベルリン) グランプリ受賞。同時にマックス・レーガー特別賞受賞。
03年 毎年、世界的な著名演奏家などの選考を受け、今後世界的な活躍が期待されるアーティストに贈る ヤング・アーティスト・オブ・ザ・イヤー 賞受賞。(03年の審査員はロストロポーヴィッチ、岩崎洸、グートマン、エッシェンバッハ、ゲルギエフ他)
06年 デビューCD「チェロ・ソナタ」が、ドイツ・フォノ・アカデミー主催 エコー・クラシック新進演奏家賞 受賞。(2005年11月発売/SICC-276 ソニー・クラシカルより発売、メンデルスゾーン、ブリテン、フランクのソナタ3曲を収録、ピアノ:マーティン・ヘルムヘン)

石坂団十郎はドイツをはじめ、世界各国で演奏活動を続けている。ソロ奏者、室内楽奏者として、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、ラインガウ音楽祭、ロッケンハウス音楽祭、エルサレム室内楽音楽祭、ルツェルン音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ザルツブルグ復活祭音楽祭、ベルリン芸術祭等、多数の国際的音楽祭に出演している。

これまでG.クレーメル、T.ツインマーマン、L.フォークト、J.フィッシャー、J.ラクリン、R.キャブソン、S.カム、諏訪内晶子、樫本大進、庄司紗矢香等と共演。また、ピアニストのパートナーとしてはM.シルマー、J.ガジャード、M.ヘルムヘン、H.ジークリートソンが挙げられる。

多数の難関コンクールを立て続けに制した後、03年にフランクフルト・アルテ・オーパーでフランクフルト放送交響楽団と共演し、大成功を収め、日刊全国紙フランクフルター・アルゲマイネ(FAZ)紙面で

「天才は自ら道を切り拓く」と高く評価される。その直後、権威あるウィーン楽友協会で K.ペンデレッキ - 指揮ウィーン交響楽団との共演が国際的注目を集めるところとなった。

これまでサー・R.リントン、佐渡裕、M.ロストロポーヴィッチ、G.アルブレヒト、C.エッセンバッハ、M.コロフスキー、J.コウト、L.フォスター、L.スラットキン等の指揮者と共に、バイエルン放送響、フランクフルト放送響、ベルリン放送響、ドイツ放送フィル管、ライプツヒ・ゲヴァントハウス管、ミュンヘン室内管、ウィーン響、リンツ・ブルックナー管、ボルチモア響、ルクセンブルク響、シンガポール響、プラハ響、等に招かれソリストとして共演している。08 年はヴァイオリンの L.パティアシュヴィリとの共演でアムステルダム・コンセルトヘボウにデビューし、また、ロンドンの世界最大のクラシック音楽祭「BBC プロムス」で、BBC スコットランド響と共演し、ロイヤル・アルバート・ホールにデビューした。

今後は、ピアニストのマルクス・シルマーとベートーヴェンのチェロ作品全曲演奏をドイツ、オーストリア、イタリア、日本で取り組む他、トーン・キュンストラ管、BBC スコティッシュ管、クレメラータ・バルティカ、プラハ響、ロンドン・フィル、ライプツヒ・ゲヴァントハウス管等と共演、ロッケンハウス音楽祭、BBC プロムス等に出演が予定されている。

04 年 4 月には N 響との共演で日本デビューを飾り、その後リサイタルツアーや東響、仙台フィル、アンサンブル金沢、名古屋フィルと共演し絶賛される。

06 年には英国 BBC 放送協会の権威ある新進音楽家育成プログラムのアーティストに選ばれている。これは BBC ラジオ 3 で、ソロ録音と BBC 専属オーケストラとの協奏曲録音、英国内でのリサイタルで構成するものだ。またこの年の 11 月には N 響定期、および NHK 音楽祭に出演。サー・R.リントン指揮で、ヴィブラートを抑制したピリオド奏法でエルガーのチェロ協奏曲を演奏する試みを見事に成功させ、大反響を呼んだ。その模様は TV でも放映されている。08 年にはチューリッヒ室内管、ヴァイオリンのアラベラ・シュタインバッハーと二重協奏曲による欧州ツアー、引き続きサー・A.デイヴィス指揮ロイヤル・フィルと共演等、日本では 9 月に日本音楽財団のストラディヴァリウス公演で好評を博した。

今年 3 月には N 響と 3 度目の共演となる国内ツアー、2010 年 2 月に九州交響楽団デビュー、またピアニストのマルクス・シルマーとのベートーヴェン・チェロ作品全曲演奏の国内ツアーを予定している。なお演奏楽器は、クロンベルク・アカデミーから貸与された、故 B.ペルガメンシコフ教授が使った W.シュナーベル作 1997 年製チェロ、ならびに日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウス 1696 年製チェロ「ロード・アイレスフォード」を使用している。

<http://www.danjulo-ishizaka.com/jp/>

(2009 年 1 月現在)